







環境活動の根本は

「限りある資源を無駄なく、大切にする」こと

木は繰り返し生産できる再生可能資源

「地球は先祖から受け継いだものではない、子孫から借りているものだ」という言葉があります。私たちは限りある地球の資源を無駄なく、大切に使って、未来に残さなくてはなりません。「持続可能な社会」は私たちの大きなテーマです。木は伐採後に植林するなど、再生産することが可能です。持続可能な資源(=未来に残せる資源)として木材を計画的に利用することは、地球環境にやさしい資源利用といえます。

環境先進国といわれるスウェーデンでも、18世紀後半には森林破壊の危機に直面し、「森林保護法」が制定されました。建築材として十分な太さに到達しない木の伐採が制限され、伐採後の森林再生が始まり、現在では森林が増え続けています。スウェーデンハウスはこうした管理された森林から伐採した木材を使用し、スウェーデンのダーラナ地方にある現地工場「トーモクヒュースAB」で木質壁パネルや窓などの部材を生産しています。

スウェーデンハウスでは再生可能資源である木材を使用し、長寿命の住宅を提供しています。日本では住宅の寿命が30年ほどとされ、築100年の住宅も珍しくない欧米諸国に比べると短期間で住宅が取り壊されています。長寿命の家をつくることは、森林伐採サイクルの長期化と二酸化炭素の長期固定化にも大きく貢献します。

長寿命の木の家を建てることは、未来のために森に木を植えることと同じではないでしょうか。スウェーデンハウスにはスウェーデンの住思想が込められていますが、そこには「人と自然との共生」が根底にあり、人と地球に快適な家を約束しています。

一人ひとりの活動が低炭素社会をつくる

住宅は短期間に建て替える消費財ではなく、社会的資産であるとして、2009年に「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」が施行されました。これは質の良い、長寿命の住宅を普及させることを目的としています。

さらに2012年には「都市の低炭素化の促進に関する法律」が制定され、高い省エネ性能や自然エネルギーを利用した低炭素住宅の普及・ 促進を図っています。

今、国が求めている社会資産となる住宅は、スウェーデンハウスが創業以来、「ワングレード・ハイスペック」の住宅を提供している住思想と重なるものです。

モノを大切にして無駄なく最後まで使う。資源の少ない日本では昔からモノづくりの根幹をなすものです。私たちが目指す環境活動もシンプルに考えると、「もったいない」の精神にあります。

一人ひとりがこの気持ちをもって、環境活動に取り組むことが大切です。全社員による主体的な取り組みを徹底し、未来に残せる社会的資産を提供いたします。

スウェーデンハウス株式会社 代表取締役社長

倒田正人







社員一人ひとりが ECOを考え、行動する。

Thinking ECOとは、環境問題に対する「改善活動」の基本スタンスを表現するものです。人と環境にやさしいECO、Earth Conscious (地球を大切にしようという意識と行動)について、社員一人ひとりが自分でできること、やるべきことを常に考え、行動すること。一人の小さな改善活動が組織に広がり、やがて地球環境にも広がっていくと信じています。

今後もスウェーデンハウス環境方針に基づき、 企業としての環境課題への責任を果たし、地域と 地球全体の環境保全に取り組んでまいります。

』 企業活動のECO

クリーンエネルギーの効果的な利用 資源の節約、廃棄物の削減 省エネルギー・快適性能の追求 環境負荷の小さな住宅スウェーデンハウスの普及

2お客様の暮らしのECO

お住まいのメンテナンスサポートシステム「ヒュースドクトル50」

- 訪問によるメンテナンスアドバイスやリフォーム提案 「50年間無料定期検診システム」
- Webサービスによるメンテナンス情報の提供 「オーナー様専用サイト God Dag (グッダー)」
- オーナー様参加型イベントの開催 「メンテナンス教室」

省エネ性能と快適さを数値で表示

○全棟高性能保証表示システム「CQ24+U」

省エネルギー生活の提案・情報発信

○情報誌『The Sweden House』発行

3 地球環境のECO

環境と共生する街づくり事業

- 北海道スウェーデンヒルズ
- スウェディッシュガーデンひばりが丘
- ○茨城県たつのこ邑
- スウェディッシュガーデン印西牧の原 など

森林管理から考える家づくり

- ○合法に伐採された木材利用
- 森林管理によって生態系が守られている地域からの木材利用

文化支援活動

○スウェーデンとの文化交流









スウェーデンハウス環境方針

スウェーデンハウスは、環境先進国スウェーデンの住思想を背景に、 天然木の香りあふれる家づくり、省エネ・快適性能の追求、 住宅の機能と価値の長寿命化、

日本の風土への調和と融合を推進します。

これにより生活消費エネルギーの極小化、 クリーンエネルギーの効果的な利用、

CO₂の長期固定化、資源の節約、廃棄物の削減と再活用をはかり、 生物多様性を尊重し、地域と地球全体の環境保全に貢献します。

- 行動指針

- 1. 技術の進歩や環境の変化に対応し、常により環境負荷の小さな家を建てられるように、 継続して改善を行っていきます。
- 2. 環境関連法規は最低限の基準と考え遵守するとともに、より厳しい自主基準を課して環境保全に努めていきます。
- 3. 環境負荷の小さな家を提供するにあたり、企業活動のあらゆる面でのムダをなくし、 資源の有効活用をはかります。
- 4. 持続可能な森林経営を支援し、生物の多様性を守るため、木材調達方針を策定します。
- 5. 全社員に対する環境教育を継続して行い環境意識を高めるとともに、協力施工店等に対しても、当社環境方針への理解と協力を要請します。

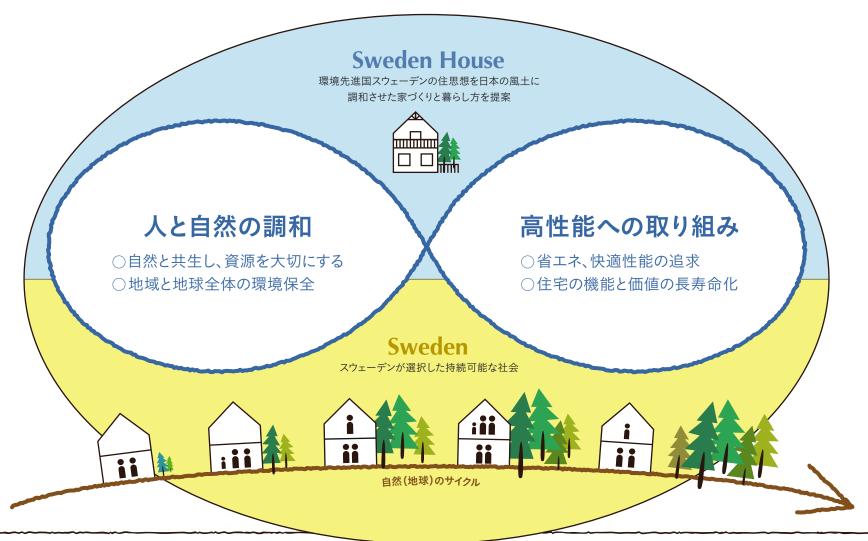


スウェーデンハウスの家づくり①



スウェーデンハウスは、人も地球も快適にする。

地球環境への配慮は、人の健康や安全と両立させたうえで考え、人へのやさしさ、地球へのやさしさ、その二つが重なるところに私たちが目指す「快適」があります。





スウェーデンハウスの家づくり②



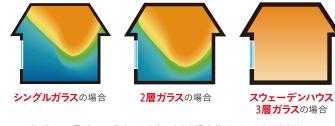
CO₂を削減している スウェーデンハウスの窓

窓からの熱の流入・流出を大幅に低減

スウェーデンハウスでは創業当初から木製サッシ3層ガラス窓を全棟で標準装備しています。高い断熱性能を確保するためには、建物の躯体だけでなく窓、玄関ドアなどの開口部の断熱化が必須となるためです。特に木製サッシにこだわっている理由は、木はアルミに比べて約1700倍の断熱性能があり、さらに湿度調整機能が備わっているため、高温多湿な日本の気候に適した素材だからです。

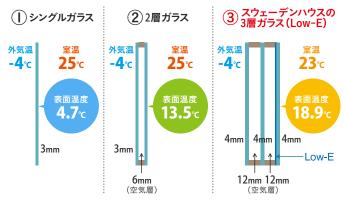
そして3層ガラスによってさらに断熱性能を高めています。複層ガラスは空気層が優れた断熱材となります。一般的な複層ガラス(2層ガラス)の空気層6mmに対して、スウェーデンハウスでは12mmの空気層を設け、3層ガラスに挟まれた空気層は12mm×2=24mmにもなります。ガラス自体も4mm(2層ガラスは3mm)と厚いガラスを採用。室内側のガラスにはLow-Eガラスを標準装備しているので、夏の日射熱の流入を半減させると同時に、有害な紫外線も約74%もカットします。

【外気温度-5℃の場合の温度分布(室温は暖房で20℃に設定)】



シングルガラス・2層ガラスの住まいは室内に大きな温度差ができてしまいますが、スウェーデンハウスは室内温度が均一。





- ○表面温度はガラスの熱貫流率より計算で求めたガラス中央部の温度で、ガラスの外周の 温度は異なります。
- スウェーデンハウスは室温23°Cでも十分快適なので、23°Cに設定。

1棟でブナの木34本分のCO2を削減

スウェーデンハウスの木製サッシ3層ガラス窓とアルミサッシシングルガラスを採用した窓では、どれだけ断熱性能が違うのでしょうか?窓の違いによる CO_2 削減量を試算してみました。スウェーデンハウス1棟につき、窓の断熱性能だけに注目して比較すると、 CO_2 削減量は1年間にブナの木が吸収する CO_2 量約34本分に相当します。これまで全国に建設されているスウェーデンハウス (約32,467棟/2017年3月末現在)に換算すると約110万本分になります。



※算出根拠

- ○断熱仕様・間取りが同じスウェーデンハウスで、木製サッシ3層Low-Eガラスの場合とアル ミサッシシングルガラスの場合のそれぞれの冷暖房負荷を算出し、標準的なエアコンを使 用している場合でのエネルギー消費量の差からCO₂の削減量を求めている。
- ○CO2排出係数は2015年度環境省公表の電気事業者別CO2排出係数実績(東京電力)による。
- ○プナの木の本数は、 CO_2 削減量をプナの木1本が1年間に吸収する CO_2 量で割り、算出したもの。プナの木が1年間に吸収する CO_2 量=11kg(独立行政法人 森林総合研究所試算による)



スウェーデンハウスの家づくり③



普通に暮らすだけで 快適と省エネの両立が可能

約40%も少ないエネルギーで快適生活

近年、冷暖房機器等の省エネ性能は格段に高くなっていますが、建物の断熱性能が低いと、最新機器を採用しても使うエネルギーはたくさん必要になります。スウェーデンハウスは①家全体を包み込む分厚い断熱材、②木製サッシ3層ガラス窓、③高気密施工により、質の高い省エネ性能を標準仕様としています。外気の暑さ、寒さの影響を防ぎ、しかも家中の温度変化が少ない「快適に省エネ生活ができる家」を実現しています。

スウェーデンハウスは一般住宅の一次エネルギー消費量*1を100%とした場合、約40%も少ないエネルギーで快適に生活できます(下図参照)。*1 建物全体で使用するエネルギー量





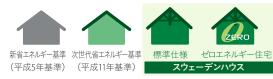
スウェーデンハウスは標準仕様が省エネ仕様 つまり特別な設備を追加しなくても、普通に暮らすだけで節約できるのです。 100% -般住宅 「比較シミュレーション条件」○U値:〈一般住宅〉(新省エネルギー基準相当)U値1.54相当、〈スウェーデンハウス〉U値0.44 ○建築地:関東地域(省エネ地域区分:6地域)○家族構成:4人 ○建物形状:総2階建て ○延床面積:120m²程度 ○オール電化(エアコン、エコキュート、IH、第1種換気システム(熱交換)、LED照明)

ゼロエネルギー住宅にも 一歩先の対応

今後の方向性として住宅の性能をエネルギー消費量で示す「建物燃費の見える化」へと進んでいます。建築物省エネルギー基準(平成28年基準)では、「一次エネルギー消費量」と「外皮平均熱貫流率(U値)」を大きな指標としています。一次エネルギー消費量とは、1年間の家庭用エネルギーを熱量換算した値で「建物の燃費」ともいえます。一方、外皮平均熱貫流率(U値)とは、建物自体の断熱性能を示しています。

国は2020年を目標に「ゼロエネル

【性能別の一次エネルギー消費量の比較】





ギー住宅を標準的な新築住宅とする事」と掲げていますが、スウェーデンハウスは標準仕様で高い省エネ性能を備えているので、つくるエネルギーとして採用する太陽光発電システムの搭載量が少なくてすみます。また、新築だけでなくすでにお住まいのスウェーデンハウスも高効率の設備機器やわずかな太陽光発電システムを装備するだけで、ゼロエネルギー住宅が実現可能です。

そもそも ゼロエネルギー住宅とは? 「高気密・高断熱」「省エネ設備」「太陽光発電等の創エネ設備」を組み合わせ、 日常生活で使うエネルギーを"正味ゼロ"にするのがゼロエネルギー住宅です。 減らせる エネルギ エネルギー <基 本 性 能> ●高気密·高断熱 ●太陽光発電システム ●照明 ●換気 ●エネファーム <省エネ設備> ●HFMS(へムス) ●高効率エアコン ●高効率給湯器 ●LED照明 ●高効率換気システム ※減らせるエネルギーに家電は含まれません。 国は2020年を目標に「ゼロエネルギー住宅を標準的な新築住宅とする事」をかかげています。



スウェーデンハウスの家づくり④



全棟高性能保証 表示システムで1棟ごとに 性能を数値で確認



住まいの快適性能を明確にする

スウェーデンハウスは日本の住宅メーカーに **先駆けて、1999年に「全棟高性能保証表示シ** ステム」をスタート。健康で快適な暮らしのため に、一棟一棟、断熱性能を示すQ値を計算、気 密性能を示すC値を測定し、その数値を表示 してお引渡ししてきました。

2013年7月からは、改正省エネルギー法の 施行に先立ち、新たに断熱性能を示すU値も 加えて、その性能を表示しています。



C値は家の気密性能を示す数値。スウェーデンハウスでは省エネルギー効率を証明する 大切な指標と考え、建物の完成時にすべての住宅で測定し、表示しています。



●C値の地域区分別・基準値

C値(cm²/m²)
	ニネルギー基準 11年基準)
地域	2.0
II地域	2.0
III地域	
IV地域	5.0
V地域	5.0
VI地域	

:m²/m²)	
ネルギー基準	コントロールできないため、換気システ
1年基準)	ムによって空気の質を良好に維持する
2.0	こともできません。「気密性能」は私た
	ちにとって妥協できない大切なもので
5.0	あるからこそ、お引渡し時に全棟でC値
	測定を行っています。

U値は床・外壁・窓・屋根など外部と接する部分(外皮)がどれだけ熱を通すかを示す数 値。換気による影響は含まれず、純粋に外皮の各部位の熱を通す度合いを算出し、その 平均値を示します。

建物から逃げる総熱量

気密は断熱と計画換気の要です

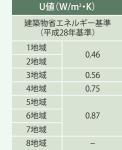
スウェーデンハウスは気密性能(C値)、断熱性能(Q値·U値)、計画換気の3

つが高いレベルで備わってこそ、快適な住まいが実現すると考えています。ど

んなにしっかりと断熱しても気密性が低ければ、隙間から空気が出入りして

しまい快適な温度が保てません。また、隙間があると計画的に空気の流れを

●U値の地域区分別·基準値



熱損失係数

Q値は外壁・天井・床等からの熱損失量と換気による熱損失量を合計し延床面積で割っ た値。建物の形状などによる熱負荷も踏まえた断熱性を示し、実際に暮らした場合の 快適さと省エネ性能を含めた断熱性能の指標となります。 ●0値の地域区分別・基準値



O値(W/m²·K) 次世代省エネルギー基準 (平成11年基準) |地域 1.6 1.9 II地域 |||地域 2.4 IV地域 2.7 V地域 VI地域 3.7



スウェーデンハウスの家づくり⑤





資産価値を維持するためのシステム

「ヒュースドクトル50」

6.125月点檢 2年点檢 4年点檢

総合

点検

点検

長く快適に暮らすためのメンテナンス

スウェーデンハウスは業界に先駆けて2000年8月より、50年間無料定期検診システム「ヒュースドクトル50」をスタートさせました。このシステムには「よいものを長く大切に使い続ける」というスウェーデンハウスの思想が根底にあります。当時、20年保証制度は、「10年保証+必要改修工事後10年の保証延長」というメーカーもありましたが、そのような方法は、まだ十分に使える屋根材や外壁材でも保証のために張り替えることになり、スウェーデンハウスの思想に合致しないものでした。そこで保証だけでなく、長い年月お客様とともに

外部・内部建具調整など

不具合個所の点検・補修

お引渡し 3ヶ月点検

総合点検

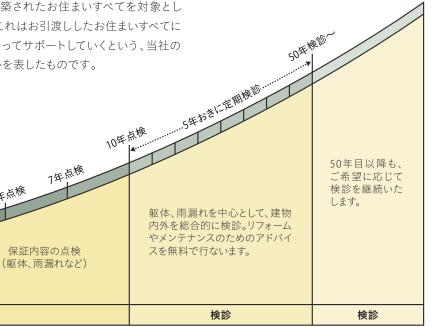
住まいを大事に長持ちさせるという発想から「ヒュースドクトル50」が生まれました。

また、お客様のニーズに合わせプラス10年 保証制度も導入しました。いずれの場合も制 度スタート時の建物だけでなく過去にさかの ぼって建築されたお住まいすべてを対象とし ました。これはお引渡ししたお住まいすべてに 責任を持ってサポートしていくという、当社の 企業姿勢を表したものです。

●オーナー様専用サイト「God Dag(グッダー)」

メンテナンス情報等をインターネットで確認できるオーナー様専用サイト。定期点検・検診記録をはじめオーナー様のセルフメンテナンス記録なども登録でき、情報を共有化します。

また、オーナー様自身でメンテナンスができるように、web上でメンテナンス教室等を開催しています。



標準仕様で長期優良住宅に対応

一般的な日本の住宅は約30年という短い周期で建て替えられていますが、国は長く快適に暮らせる住宅の普及・促進を図っています。2009年に「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」が施行され、質の良い住宅を優遇することで普及を促進し、社会的資産としての循環利用や建て替え時の環境負荷を低減することを目指しています。一定の基準をクリアした住宅は、長期優良住宅と認定され、税制の優遇等を受けることができます。スウェーデンハウスは標準仕様で長期優良住宅の認定を受けることが可能です。

【長期優良住宅への対応】

●標準で対応

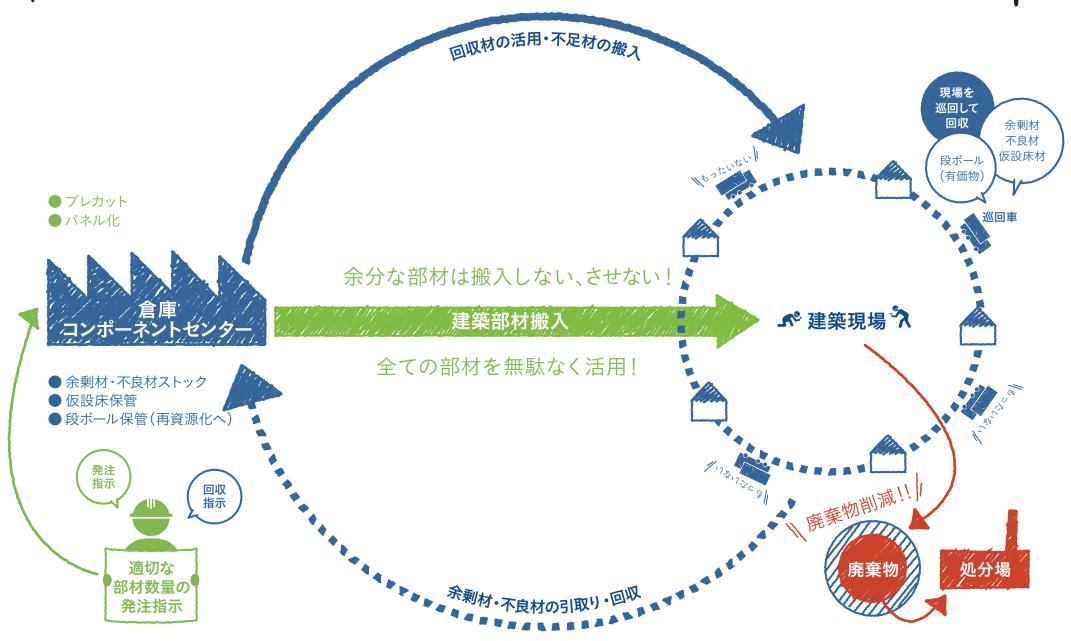
【長期優艮任宅への対応】		●標準で対応
認定内容	基準	スウェーデンハウスの 等級
耐震性 極めて稀に(数百年に一度程度) 発生する地震に対し、継続利用の ための改修の容易化を図るため、 損傷のレベルの低減を図ること。	耐震等級2以上	128
劣化対策 数世代にわたり住宅の構造躯体 が使用できること。	劣化対策等級3	123
維持管理・更新の容易性 構造躯体に比べて耐用年数が短い内装・設備について、維持管理 (清掃・点検・補修・更新)を容易 に行うために必要な措置が講じられていること。	維持管理対策等級 (専用配管)等級3	123
省エネルギー性 必要な断熱性能等の省エネル ギー性能が確保されていること。	断熱等性能等級4	1234

※プランにより等級が異なります。長期優良住宅に対応するには、その他設計上必要な 基準があります。※認定長期優良住宅の維持保全の状況について、所轄行政庁により、 報告を求められることがあります。



資源循環による廃棄物削減①







資源循環による廃棄物削減②



回収材の活用・不足材の搬入

建築現場への部材搬入

倉庫・コンポーネントセンターでは、スウェーデン から運ばれてきた部材をストックしている他、現 場での端材の発生を抑制するため材料のプレ カットやパネル化(床・壁)などを行っている。











図面に合わせてプレカットした部材が邸別にまとめられ、発注指示に従って 建築現場に搬入される。



発注指示·回収指示

VOICE ①

管理部 市川智生さん(左) 木﨑啓太さん(右) 私たちの仕事は「余分な部材は搬入しない、させない!」を合言葉に、建築現場に無駄のない部材搬入を指示すること です。搬入する予備材を極力削減して廃棄物を減らし、限りある資源を大切に使う工夫をすることで、廃棄物の削減に 取り組んでいます。



資源循環による廃棄物削減③





建築現場には工事の進捗状況に合わせて必要な部材が搬入される。廃棄物削減の取り組みをさらに強化するため、現場で余った部材を廃棄物にしないように部材発注基準を厳しく見直し、余剰材は巡回車によって回収する。



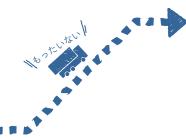






余剰材・不良材の引取り回収

余剰材や不良材の仕分け作業。現場と連携をとりながら行っている(写真左)。



回収材の運搬

搬入時や巡回時に回収された部材は、倉庫・コンポーネントセンターに運ばれる。



仮設床材の回収

吹き抜けのあるプランの場合、2階木工事の際に仮設床が設置される(写真左)。工事終了後は取り外されて廃棄物として処理していたが、仮設床材を回収して活用する試みがスタートした。



大切な資源である 木材の廃棄物を削減!!



廃棄物

VOICE 2

千葉支店 工事グループ 鈴木健之さん(左) 佐々木啓祐さん(右)

これまで廃棄物となっていた部材(とくに木材)をきめ細かく仕分け、現場を巡回する運搬車で回収します。 部材発注担当者と現場の連絡を密にして、効率よく回収し廃棄物削減を心掛けています。産業廃棄物の 量を減らすことはコスト削減にもつながります。



私たちのThinking ECO — 工事グループ①



「5S運動」で

Seiton

品質管理・廃棄物削減を推進

スウェーデンハウスの工事現場では「5S運動」を実行しています。5Sを徹 底することで、作業の効率化、品質管理、廃棄物の削減につながります。ま た、整理整頓を習慣づけ、常に現場の美化を心掛けることは、お客様の信頼 に応えるためにも大切な仕事です。

5S運動

Seiri 整理:いらないものを捨てる

整頓:誰でも使いやすいように並べる

Seiso 清掃:現場を常にきれいにする

Seiketsu 清潔:整理・整頓・清掃した状況を維持する

Sitsuke 躾 :決められたことを守る習慣づけ



工事現場で作業をするすべての社員や協力業者に「安全衛生手帳」が配布され、安全 な作業のためのルールをはじめ、「5S運動」についても周知徹底が図られている。





ごみの分別は透明のビニール袋にコンパクトにまとめられる。色分けして表 示しているので分かりやすい(東北支店)。

←工事現場の玄関ドアには、環境 方針、建設副産物の分別一覧を掲 示し、環境にやさしい現場づくりの 意識を高めている(千葉支店)。

→建設廃棄物保管場所として「産 廃ボックス」を設置。ビニールで覆 われているので廃棄物を濡らさず、 また現場の美化の観点から採用し ている。パネル(写真右上)に廃棄 物の種類を明記(広島支店)。







私たちのThinking ECO — 工事グループ②



処理施設・処分場の視察・調査を実施

当社では建築現場から排出される産業廃棄物が処理業者により、適切に分類・処理されているか、また、最終処分場まで確実に送られているか確認するため、各拠点の工事担当者が廃棄物の調査及び産業廃棄物処理業者の視察を実施しています。視察時には下記の内容がチェックされます。

- ☑ 廃棄物処理業者の許可取得状況
- ず許可項目の分類・処理及びリサイクルへの転換状況
- ☑ 施設の状況及び周辺地域への配慮
- ☑ 最終処分場(伝票や施設を実際に確認)





中間処理施設とリサイクルセンターを視察し、社員教育を実施。産業廃棄物を削減するためには、さらにプレカット率を高めること、現場職人への指導と分別・袋詰めを徹底することを確認(千葉支店)。



石膏ボードのリサイクル施設を視察。石膏と表面紙を分離し石膏は再利用、紙は製紙業者で再利用される。写真は分離機械で石膏が90%以上落とされて分離された紙。触っても石膏が手につかない(東北支店)。







中間処理施設と最終処分場を視察。ビル等を解体したコンクリート塊も破砕して再生砕石(写真左上)として、木材はチップ(写真右上)としてリサイクルされる。総処理量25万m³の安定型最終処分場(写真左)は、最終処分として年間で約1万m³が排出されるため、25年で満杯になる。安定型処分場だが構造としては管理型処分場と同じく環境に配慮している(九州支店)。



森林管理から考える家づくり①







森林管理から考える家づくり②





木材調達方針の策定と取り組み

スウェーデンハウスは2013年10月に木材調達方針を策定しました。

私たちは森林生態系の保護と持続的な森林資源の利用の両立を実現することを目指し、「責任ある木材調達」を行なっています。

【具体的な推進策】

コストバランスを崩さず安定的に木材を調達する事を前 提にして以下の点を推進します。

- ●森林認証材の購入を段階的に増やし、2020年には輸入構造材の100%を認証材とすることを目指します。
- ●サプライヤーと協力し、木材製品が合法的に伐採されているものに由来していることを確認します。

現地工場トーモクヒュースAB

スウェーデンは持続可能な森林管理を実施しているため、立木量(りゅうぼくりょう)ストックが年々増加しています。スウェーデンハウスの現地工場トーモクヒュースAB*があるダーラナ地方は、良質な森林資源に恵まれています。木目が詰まった、極めて丈夫で品質が安定した木材によって、スウェーデンハウスの木質壁パネルや窓が生産されています。

現地工場では日本の文化・気候風土を理解したうえで、きめ細かい品質管理・品質改良を行っており、さらに木質壁パネルの断熱材の充填も現地工場で正確に加工されることでスウェーデンハウスの高性能を実現しています。 ※AB=株式会社



豊かな森林が広がるスウェーデン・ダーラナ地方。



トーモクヒユースABの工場棟。



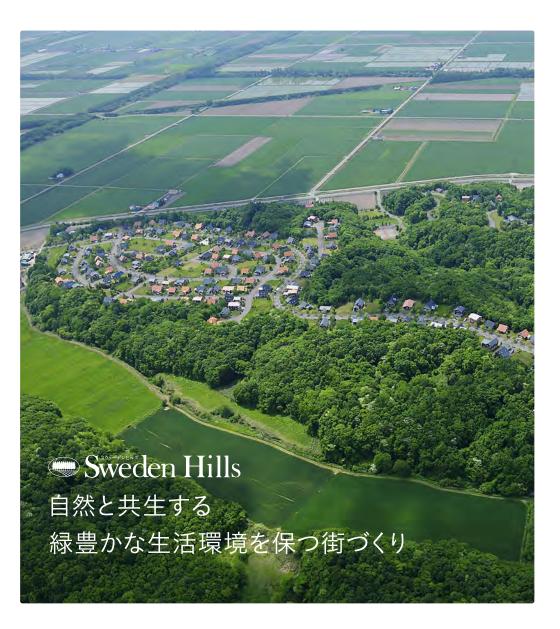
現地工場では厳しい検査を実施し、精度の高い部材を供給。

15)



環境と共生する街づくり①





先進的なコンセプトで計画された 資産価値のある街づくり

資産として価値のある家づくりを事業理念とする当社は、個人の住宅だけでなく自然と共生した街づくりを計画し、北海道石狩郡当別町にスウェーデンヒルズを開発しました。スウェーデンヒルズは30年前から開発が始まり、北欧の街づくりをお手本とした緑豊かな生活環境に、約430棟のスウェーデンハウスが建ち並んでいます。

開発当時、単に宅地開発するのではなく「スウェーデン住宅地として、豊かな自然環境と調和した街」を計画し、その街づくりのコンセプトは先進的なものでした。住宅街区面積約150ha(約45万坪)のうち、3分の2にあたる100ha(約30万坪)を森林として自然のまま残し、住宅エリアは丘陵地の斜面をいかして、それぞれ異なる地形・景観を楽しめるようにゾーニングされています。

電柱のない美しい街並みを実現

スウェーデンヒルズには電柱が一本もありません。電線はすべて地下に埋設することで、美しい街並みを実現しています。30年前、このように「街の景観」を意識した開発は画期的なものでした。地下埋設は景観面だけでなく地震、大雪などの災害時に電線が切れる心配もなく、ライフラインが確保されるメリットもあります。

無電柱化とともに幹線道路や散策路に樹木を植えて 緑化に努めるなど、当社だけでなく、スウェーデンヒルズ に住む人々の高い意識によって、年月を経るほどに成熟 していく美しい景観を実現しています。

無電柱化推進の活動が普及

日本では戦後、急増する電力・通信需要に対応するため、多くの電柱が建てられました。約3500万本の電柱があり、毎年7万本ペースで増え続けているそうです。東京都では2020年までに中央環状線の内側で無電柱化を100%とする方針をとっています。その大きな目的は3つ。

- ① 都市防災機能の強化
- ② 安全で快適な歩行空間の確保
- ③ 良好な都市景観の創出

特に2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、首都東京にふさわしい景観を形成するために無電柱化は必要不可欠です。

30年前、日本ではどんどん電柱が増加していた時代に、スウェーデンヒルズは景観を重視した「無電柱化」を街づくりのコンセプトに取り入れ、21世紀の街づくりのモデルとして高い評価を受けました。

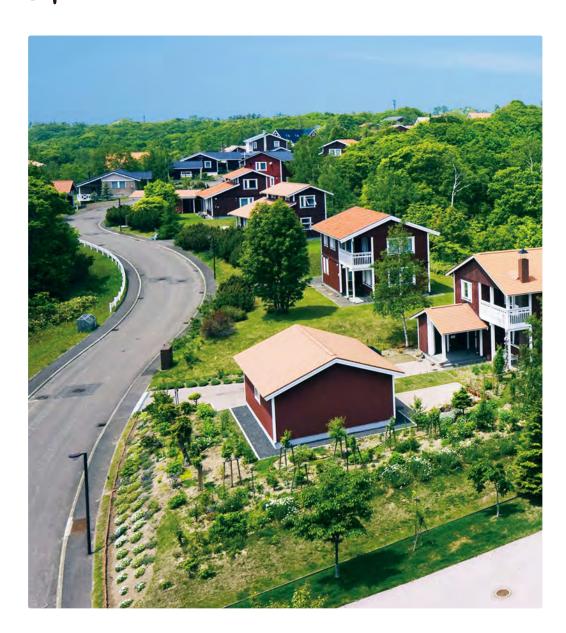


安全で静かな環境をつくる道路計画として、街区道路の先端を ループ状にする「クルドサック方式」を採用。



環境と共生する街づくり②





長い年月を視野においた 住民が守り育てていく「建築協定」

住むほどに快適で、その素晴らしさが増す生活環境 を維持していくため、スウェーデンヒルズには「建築協 定」が設けられています。

例えば、宅地の境界から一定の距離をおいて家を建築すること、屋根及び外壁は一定の基本色から選択すること、境界の柵は環境を損なわないように生垣または樹木とすること等が決められています。建築協定は常に住民みんなで考え守り育てられ、50年、100年といった長い時間を視野におき、美しい環境を保つ街づくりが実現されています。

こうした取り組みによってスウェーデンヒルズ建築協定委員会は、2006年、一般社団法人住宅生産振興財団が主催する「住まいまちなみコンクール」で「第2回住まいまちなみ賞」を受賞しました。

街づくりに日瑞の文化交流施設を整備

スウェーデンヒルズ開発計画の中には、日本とスウェーデンの文化交流を目的とした施設「財団法人**スウェーデン交流センター」を設立することが盛り込まれていました(1986年8月開館)。

1987年10月には、当別町とスウェーデンのダーラナ県レクサンド市との姉妹都市提携が実現しました。同時に当別・レクサンド都市交流協会が設立され、以来、教育・文化・スポーツなど多岐にわたって活発な交流が続けられています。

※現·一般財団法人

スウェーデンヒルズの夏至祭

スウェーデンヒルズでは毎年、スウェーデンの伝統行事である夏至祭(6月)が盛大に行われます。

夏至祭は当別町の夏を告げる行事として定着し、町民だけでなく日本全国からもたくさんの方が参加されます。スウェーデンの民族衣装に身を包み、女の子は頭に花飾りをつけて、音楽を奏でながら街を行進します。祭りのクライマックスにはマイストング(夏至柱)を大きな掛け声とともに立ち上げます。





環境と共生する街づくり③



レクサンド市・当別町姉妹都市提携30周年記念イベント

1987年から始まった当別町とスウェーデン・レクサンド市との姉妹都市提携が30周年を迎えました。2017年10月26日から5日間、レクサンド市からウルリカ・リリエベリィ市長をはじめとした60名を超える訪問団が当別町に滞在し、記念式典やさまざまな文化・スポーツ交流が行われました。

10月28日、西当別コミュニティセンターで開催された記念式

典では、北海道知事、駐日スウェーデン大使が来賓として出席し、宮司正毅町長、ウルリカ・リリエベリィ市長から30年の歴史における国際姉妹都市交流功労者に感謝状が授与されました。また、9月にオープンしたばかりの「北欧の風道の駅とうべつ」では、夏至祭のシンボル「マイストング」を交流の証として立ち上げました。



記念式典でウルリカ・リリエベリィ市長(中央の民族衣装の女性)から国際姉妹都市交流功労者に感謝状を授与(市長の左が宮司正毅町長)。



姉妹都市提携30周年記念モニュメントの除幕式。



レクサンド市の訪問団に当別音頭を披露。



「北欧の風 道の駅とうべつ」では夏至祭のシンボル「マイストング」を立ち上げました。



環境と共生する街づくり4



スウェーデンヒルズ開発から生まれた日瑞交流

レクサンド市は長年にわたる二国間の交流の歴史と功績が 認められ、日本から外務大臣表彰を受賞しました(2017年6 月)。リリエベリィ市長は多くの若者たちが交流し、お互いを理 解しあう姉妹都市交流の必要性をスピーチで語られました。 福祉や環境先進国であるスウェーデンから学ぶ高齢化社会 問題、社会福祉制度の確立と維持、環境気候問題など、お互 いに協力して問題解決に取り組むことを将来の姉妹都市事業 として発展が期待されます。

スウェーデンヒルズは単なる土地開発ではなく、日瑞の交流 を目的したスウェーデン交流センターを街づくりに取り入れ、 30年の時を経てグローバル化した世界に必要とされる両国の 相互理解へと大きく成長しました。



スウェーデン交流センターを訪問。



当別神社を訪問したリリエベリィ市長一行。 男性は例大祭の装束で記念撮影。

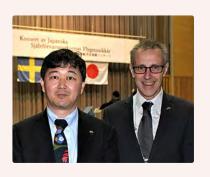




スウェーデンヒルズ内レクサンド公園にあるダーラへスト(ダーラナ馬)を囲んで記念撮影。 このダーラへストは姉妹都市提携20周年記念にレクサンド市から寄贈されたもの。



日本の書道にチャレンジしたオッレ・デラス氏。



トーモクヒュースAB社長 佐藤利典(写真左)

レクサンド市でスウェーデンハウスの部材 供給会社として経済活動していますが、今 回、文化活動や市民交流にも参加できて 大変光栄です。当別町民の温かい歓迎と 参加したレクサンド市民の情熱を強く感じ ました。普段、トーモクヒュースにいてもレ クサンド市民や学生から日本に関する相 談にのったり、情報を提供したりしていま す。相談を受けることは地域から信頼され ている証で、弊社がスウェーデンの会社と して認められていると感じています。これか らも両国の交流に少しでも貢献できればと 思います。

トーモクヒュースAB経理部長 オッレ・デラス(写真右)

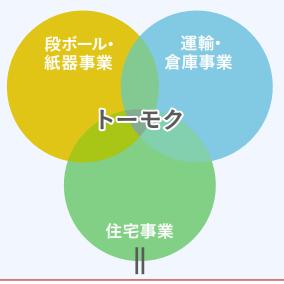
今回はシリアン・日本基金理事として参加 していますが、より深くこの基金の重要性 を理解しました。文化交流・学生の交換留 学の大事さ、この活動の大きさを実感しま した。



スウェーデンハウス株式会社 関連会社・グループ会社



トーモク・グループの住宅事業の核となる 「スウェーデンハウス」。





スウェーデンハウス リフォーム

ンのリフォーム、エクステリア施 ホームデザイン事業とゴルフ場 造しています。 工を行っています。

北洋交易

事業を柱とする総合商社。

プライムトラス

トーモクヒュース

スウェーデンハウスの100%出 スウェーデンハウスのインテリ 日本で初めて木質トラス専業 日本の気候風土に適したス 資会社で、スウェーデンハウス アや北欧デザインの快適設備 メーカーとして設立。スウェー ウェーデンハウスの住宅部材、 をはじめ、一般住宅、マンショ をトータルコーディネートする デンハウスの小屋組トラスを製 木製サッシをスウェーデン、 ダーラナ地方の現地工場で製 造しています。

当社は株式会社トーモク(東証一部)のグループ会社として住宅事業の核となり、1984年か ら環境負荷の少ない住宅販売を行っています。高気密・高断熱の優れた性能で高い信頼を得 ているスウェーデンハウスでは、住宅部材供給、販売、リフォームまで、住宅に関わる総合的な サービスをトーモク・グループと関連会社によってお客様に提供しています。長く、快適に暮らせ る「資産価値」の続く住宅を日本に普及させる、という企業理念を各社が一体となって担い、質 の高い製品とサービスをお届けしています。

スウェーデンハウス関連会社

スウェーデンハウスリフォーム 株式会社	〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町1-403 武蔵小杉STMビル7F TEL:044-711-4158
北洋交易株式会社	〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町1-403 武蔵小杉STMビル7F TEL:044-711-4480
プライムトラス株式会社	〒135-0042 東京都江東区木場2-15-12 MAビル2F TEL:03-3643-3310

グループ会社

株式会社トーモク	〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-2 丸の内三井ビル4F TEL:03-3213-6811
トーウンサービス株式会社	〒330-8541 埼玉県さいたま市大宮区土手町1-49-8 GM·大宮ビル TEL:048-647-3381
株式会社ホクヨー	〒101-0047 東京都千代田区内神田2-15-11 翔和神田ビル4F TEL:03-5298-5631
TOMOKU HUS AB (トーモクヒュース)	Box 60 S-793 12 Insjön Sweden TEL:+46-247-44000



会社概要/認定取得・表彰・受賞歴



会社概要

社名	スウェーデンハウス株式会社(英文名:SWEDEN HOUSE Co., Ltd.)
本社	東京都世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー23F
設立	1984年3月1日
資本金	4億円
代表者	代表取締役社長 岡田 正人
従業員数	861人(2017年3月)
売上高	353億円(2017年3月)
主な事業内容	1. スウェーデンより輸入する組立住宅の製造、販売 2. スウェーデンより輸入する組立住宅の設計、施工、監理 3. 不動産の売買、交換、または貸借の代理および媒介
事業所	【本社】東京 【支社·支店】北海道、東北、北関東、千葉、東京、横浜、名古屋、関西、九州 【営業所·事務所】旭川、道東、釧路、道南、新潟、群馬、宇都宮、水戸、八王子、甲信、広島、大分
展示場	全国69カ所(SPSを含む・2017年9月30日現在)
株主	株式会社トーモク 100%



2015・2016・2017年 オリコン日本顧客満足度調査 ハウスメーカー 注文住宅

3年連続 第1位受賞

消費者に本当に良いサービス・企業を紹介することを目的として、株式会社oricon MEが「オリコン 日本顧客満足度ランキング」を発表しています。ハウスメーカー注文住宅では、2015年のランキング創 設より3年連続でスウェーデンハウスが第1位の評価をいただきました。



認定取得・表彰・受賞歴

1986年	建築基準法38条システム認定取得
1992年	財団法人住宅・建築省エネルギー機構※1 気密評定取得省エネルギー住宅賞 硝子繊維協会会長賞受賞
1993年	建設省(現・国土交通省)乙種防火戸認定取得 北海道まちづくり功労者知事表彰受賞(スウェーデンヒルズにて)
1995年	貿易表彰 内閣総理大臣表彰受賞
1997年	財団法人住宅・建築省エネルギー機構※1 省エネルギー住宅賞 建設大臣賞受賞
1999年	通商産業省(現・経済産業省)住宅・建築物高効率エネルギーシステム認定取得 財団法人住宅・建築省エネルギー機構※1 環境共生住宅認定取得
2000年	財団法人住宅・建築省エネルギー機構※1 次世代省エネルギー基準適合住宅評定取得
2001年	全事業所(マルチサイト)でISO14001の認証を取得(2016年7月29日をもって認証返上)
2002年	スウェーデン製材基準強度の大臣指定取得
2004年	地球温暖化防止活動 環境大臣表彰受賞
2007年	木質複合軸材料の認定取得
2008年	ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック 2007 大賞受賞
2011年	東日本大震災における応急仮設住宅建設の貢献に対し、国土交通省から感謝状を授与される
2014年	ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013特別優秀賞受賞 2014年度グッドデザイン賞受賞(木製サッシ3層ガラス網無し防火窓)
2015年 2017年	2015・2016・2017年オリコン日本顧客満足度調査ハウスメーカー注文住宅 3年連続第1位受賞

※1 財団法人住宅・建築省エネルギー機構は、現:一般財団法人建築環境・省エネルギー機構